

## 常呂実習施設 平成 22 (2010) ～平成 23 (2011) 年度の活動記録

### (1) 活動の概要

平成 22 (2010) 年度～平成 23 (2011) 年度における、本施設をめぐる主要な動向は以下の二点である。第一点は新たな発掘調査の開始である。平成 21 (2009) 年度に測量調査を実施していた北見市大島 2 遺跡に対し、平成 22 (2010) 年度より本格的な発掘調査を開始した。大島遺跡群については、1970 年に測量調査が実施されていたものの本格的な発掘調査はこれまでおこなわれたことがなく、今回からの調査が初の発掘となる。第二点は組織体制に関するもので、前年度 (平成 21 年度) には一時的に准教授 1 名のみ体制となっていたところ、平成 22 (2010) 年度より助教 1 名が新たに着任し、通常の 2 名の体制に戻った。以下、項目別に平成 22 (2010) 年度～平成 23 (2011) 年度における本施設の活動の概要を記す。

組織体制では、前述のとおり、平成 22 (2010) 年 4 月 1 日付で國木田大が助教に就任した。

研究活動に関しては以下の研究助成を受けた。熊木が研究代表者となったのは、科学研究費補助金基盤研究 (B) 「北東アジア史からみた中世アイヌ文化形成過程の考古学的研究」(平成 19 (2007) 年度～平成 22 (2010) 年度) と、基盤研究 (B) 「擦文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動」(平成 23 (2011) 年度～平成 27 (2015) 年度を予定) である。また、國木田が研究代表者となって科学研究費補助金若手研究 (B) 「環日本海地域における文化集団の食性変遷に関する研究」(平成 23 (2011) 年度～平成 26 (2014) 年度) の助成を受けた。ほかに考古学研究室の大貫静夫教授を代表とする科学研究費基盤研究 (B) 「東北アジアにおける定着的狩猟採集社会の形成および変容過程の研究」(平成 19 (2007) 年度～平成 22 (2010) 年度) 及び基盤研究 (A) 「環日本海北回廊の考古学的研究」(平成 23 (2011) 年度～平成 27 (2015) 年度を予定) に熊木・國木田が連携研究者として加わった。これらの課題の研究計画を軸として北海道・東京・ハバロフスクなどで調査研究を実施し、それらの成果の一部として常呂実習施設研究報告第 9 集『東北アジアにおける定着的狩猟採集社会の形成および変容過程の研究』(東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設、2011 年) を刊行した。

ほかに、科学研究費補助金基盤研究 (B) 「縄文文化の北方フロンティアー北海道東部地域-の環境変化と縄文人の生業戦略」(研究代表者：新美倫子 名古屋大学准教授) の平成 22 (2010) 年度採択課題には熊木が共同研究者として参加した。また、科学研究費補助金基盤研究 (A) 「黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容」(研究代表者：佐藤宏之 東京大学教授、平成 21 (2009) 年度～平成 26 (2014) 年度を予定) には國木田が研究協力者として協力し、北見市吉井沢遺跡の発掘調査などに参加している。さらに考古学研究室の佐藤宏之教授が研究代表者となった総合地球環境学研究所のプロジェクト研究地域研究班の研究課題「環日本海北部地域における後期更新世の環境変動と人間の相互作用に関する総合的研究」(平成 18 (2006) 年度～平成 22 (2010) 年度) にも施設として協力し、研究の成果が常呂実習施設研究報告第 8 集『環日本海北部地域における後期更新世の環境変動と人間の相互作用に関する総合的研究』(佐藤宏之編、2011 年) として本施設より刊行されて

いる。

刊行物としては、平成 10（1998）年度～平成 17（2005）年度に当施設が北見市教育委員会と連携しながらおこなった北見市トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点の発掘調査について、正式な報告書を刊行した（熊木俊朗・國木田大編『トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点』大学院人文社会系研究科、2012 年）。また、常呂実習施設研究報告として前述の第 8 集・第 9 集を刊行している。

夏の発掘調査実習である「野外考古学Ⅱ」では、平成 22（2010）年度より北見市大島 2 遺跡の発掘調査を開始し、平成 23（2011）年度にも継続して調査を実施した。平成 23 年度の実習には本学の学生に加えて、北京大学の徐天進教授と大学院生 5 名も参加している。大島 2 遺跡は来年度以降も調査を継続する予定である。

博物館学実習では、平成 23（2011）年度開講の博物館学実習 A より、実習課題として常呂資料陳列館の企画展を制作することとした。その成果である第 1 回の企画展「5,000 軒の竪穴住居跡 □ 常呂・標津の遺跡と世界遺産」を、平成 23 年 11 月から平成 24 年 1 月にかけて開催している。来年度以降も、博物館学実習 A の成果としてこのような企画展を開催する予定である。ほかにも同実習 A では、北見市教育委員会がおこなっている「ところ遺跡の森」復元竪穴住居修復作業に協力するなど、これまでと同様に地域と連携したプログラムを実施している。

## （2）実習

### <平成 22（2010）年度>

#### 博物館学実習 A

開講期間	平成 22 年 7 月 20 日～7 月 28 日（7 月 29 日解散）
実習内容	栄浦観光案内所内企画展示（常呂町の観光案内）制作・資料陳列館展示替え・ところ遺跡の森復元竪穴住居修復作業・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生 10 名・大学院生 3 名・TA（大学院生）1 名

#### 野外考古学Ⅱ

開講期間	平成 22 年 8 月 20 日～9 月 4 日
調査遺跡	北見市大島 2 遺跡 1 号竪穴発掘調査
受講者等	学部生 4 名・大学院生 9 名（TA を含む）・当施設教員 2 名・考古学研究室教員 3 名・北見市教育委員会 2 名・その他研究者等 2 名・見学者 23 名

#### 博物館学実習 B

開講期間	平成 22 年 9 月 6 日～9 月 13 日（9 月 14 日解散）
実習内容	資料陳列館展示替え・考古資料整理の方法・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生 3 名・大学院生（TA）1 名

### <平成 23（2011）年度>

#### 博物館学実習 A

開講期間	平成 23 年 7 月 23 日～7 月 31 日（8 月 1 日解散）
------	--------------------------------------

実習内容 常呂資料陳列館第 1 回企画展「5,000 軒の竪穴住居跡 □ 常呂・標津の遺跡と世界遺産」制作・資料陳列館展示替え・ところ遺跡の森復元竪穴住居修復作業・近隣の博物館巡検など

受講者等 学部生 10 名・大学院生 3 名・TA (大学院生) 1 名

## 野外考古学Ⅱ

開講期間 平成 23 年 8 月 20 日～9 月 3 日

調査遺跡 北見市大島 2 遺跡 1 号竪穴及び 2 号竪穴発掘調査

受講者等 学部生 9 名・大学院生 5 名 (TA を含む)・当施設教員等 2 名・考古学研究室教員 2 名・北京大学教員 1 名・北京大学大学院生 5 名・北見市教育委員会 2 名・その他研究者等 2 名・見学者 11 名

## 博物館学実習 B

開講期間 平成 23 年 9 月 5 日～9 月 13 日 (9 月 14 日解散)

実習内容 資料陳列館展示替え・考古資料整理の方法・近隣の博物館巡検など

受講者等 学部生 9 名・大学院生 (TA を含む) 4 名

## (3) 調査研究活動

### ①研究助成金 (下線は当施設教員、以下同じ)

#### (当施設教員が代表者・分担者となった課題)

平成 22 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (B) (平成 19～22 年度採択課題)

「北東アジア史からみた中世アイヌ文化形成過程の考古学的研究」(課題番号: 19320124)

研究代表者: 熊木俊朗 研究分担者: 大貫静夫 連携研究者: 佐藤宏之、國木田大

平成 22 年度 科学研究費補助金 基盤研究(A) (平成 21～24 年度を予定)

「ユーラシア北東部における後期旧石器時代人の適応行動に関する総合的研究」

(課題番号: 21251009)

研究代表者: 佐藤孝雄 研究分担者: 吉田邦夫、加藤博文、増田隆一、石田肇、鈴木建治、國木田大

平成 22 年度 財団法人高梨学術奨励基金

「縄文時代におけるクッキー状炭化物の研究」

研究代表者: 國木田大 研究協力者: 吉田邦夫

平成 22 年度 受託研究 三内丸山遺跡特別研究

「三内丸山遺跡の盛土の形成過程とその場所性の解明」

研究代表者: 國木田大 研究協力者: 植田弥生

平成 23 年度 科学研究費補助金 基盤研究(B) (平成 23～27 年度を予定)

「擦文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動」(課題番号: 23320166)

研究代表者: 熊木俊朗 研究分担者: 大貫静夫 連携研究者: 佐藤宏之、國木田大

平成 23 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (B) (平成 23～24 年度を予定)

「縄文文化の北方フロンティアー北海道東部地域-の環境変化と縄文人の生業戦略」  
(課題番号：23320169)

研究代表者：新美倫子 研究分担者：門脇誠二、熊木俊朗

平成 23 年度 科学研究費補助金 若手研究 (B) (平成 23～26 年度を予定)

「環日本海地域における文化集団の食性変遷に関する研究」(課題番号：23720379)  
研究代表者：國木田大

平成 23 年度 財団法人高梨学術奨励基金

「縄文時代におけるクッキー状炭化物の研究Ⅱ」  
研究代表者：國木田大 研究協力者：吉田邦夫

#### (当施設教員が連携研究者等で協力した課題)

平成 22 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (B) (平成 19～22 年度採択課題)

「東北アジアにおける定着的食料採集社会の形成および変容過程の研究」  
(課題番号：19401030)

研究代表者：大貫静夫 連携研究者：佐藤宏之、熊木俊朗、國木田大、吉田邦夫、福田正宏

平成 22 年度 科学研究費補助金 基盤研究(A) (平成 21～26 年度を予定)

「黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容」  
(課題番号：21242026)

研究代表者：佐藤宏之 研究分担者：長崎潤一 (國木田大が研究協力者で参加)

平成 22 年度 財団法人高梨学術奨励基金

「縄文時代における儀礼行為の自然科学分析・実験考古学による復元研究」  
研究代表者：阿部昭典 研究協力者：國木田大

平成 23 年度 科学研究費補助金 基盤研究(A) (平成 23～27 年度を予定)

「環日本海北回廊の考古学的研究」(課題番号：23251014)

研究代表者：大貫静夫 連携研究者：佐藤宏之、熊木俊朗、國木田大、吉田邦夫、福田正宏

平成 23 年度 国立歴史民俗博物館共同研究 (平成 23～25 年度を予定)

「柳田國男収集考古資料の研究」

研究代表者：設楽博己 副代表者：工藤雄一郎、共同研究員：熊木俊朗、高瀬克範、福田正宏、  
山田康弘、和田 健、小池淳一、松田睦彦

平成 23 年度 財団法人高梨学術奨励基金

「縄文時代における儀礼行為の自然科学分析・実験考古学による復元研究」  
研究代表者：阿部昭典 研究協力者：國木田大

## ②主な調査

ロシア連邦ハバロフスク地方ウリチ地区 キジ湖周辺 遺跡分布調査 (ハバロフスク州国立極東博物

館との共同調査)

調査期間：平成22年8月2日～16日

参加者（日本側）：熊木俊朗、國木田大、福田正宏、森先一貴

北見市大島2遺跡 発掘調査（平成22年度）

調査期間等：前掲（野外考古学Ⅱの項）のとおり

北見市吉井沢遺跡の発掘調査および出土遺物整理作業（平成22年度）

調査期間：平成22年9月4日～10月7日、平成23年2月25日～3月12日

参加者：佐藤宏之、山田 哲、熊木俊朗、國木田大、尾田識好、林 和広、役重みゆき、夏木大吾、高屋敷飛鳥、高鹿哲広、山田香織

ロシア連邦ハバロフスク地方ウリチ地区 キジ湖周辺及び関連遺跡群 遺物整理作業（於：ハバロフスク州極東国立博物館）

調査期間：平成22年12月23日～31日

参加者（日本側）：福田正宏、熊木俊朗、國木田大、内田和典

北見市大島2遺跡 発掘調査（平成23年度）

調査期間等：前掲（野外考古学Ⅱの項）のとおり

ロシア連邦ハバロフスク地方ソルネチン地区 コンドン1遺跡 発掘調査（ハバロフスク州極東国立博物館との共同調査）

調査期間：平成23年9月16日～30日

参加者（日本側）：福田正宏、熊木俊朗、國木田大、尾田識好、夏木大吾、大澤正吾、大貫静夫、佐藤宏之

北見市吉井沢遺跡の発掘調査および出土遺物整理作業（平成23年度）

調査期間：平成23年10月6日～10月22日、平成24年2月24日～3月13日

参加者：佐藤宏之、山田 哲、國木田大、尾田識好、役重みゆき、富樫孝志、夏木大吾、高屋敷飛鳥、中村雄紀

ロシア連邦ハバロフスク地方ソルネチン地区 コンドン1遺跡 遺物整理作業（於：ハバロフスク州極東国立博物館）

調査期間：平成23年12月16日～31日

参加者（日本側）：大貫静夫、佐藤宏之、福田正宏、熊木俊朗、國木田大、尾田識好、夏木大吾、大澤正吾、森先一貴

ロシア連邦サハリン州 サハリン国立大学資料調査

調査期間：平成24年1月20日～25日

参加者（日本側）：設楽博己、工藤雄一郎、熊木俊朗、高瀬克範、福田正宏、前田 潮

### ③教員による発表論文等

（熊木関連分）

・著書・論文・調査報告等

- 2010年11月 熊木俊朗「環オホーツク海地域をめぐる古代の交流」『Ship & Ocean Newsletter』246、6-7頁。
- 2010年12月 熊木俊朗「元地式土器に見る文化の接触・融合」菊池俊彦編『北東アジアの歴史と文化』北海道大学出版会、297-313頁。
- 2010年12月 熊木俊朗「道東地区の概況1（網走）」北海道考古学会編『2010年度遺跡調査報告会資料集』北海道考古学会、21-24頁。
- 2011年3月 福田正宏・シェフコムード I. Ya.・内田和典・熊木俊朗編（大貫静夫監修）『東北アジアにおける定着的食料採集社会の形成および変容過程の研究』東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設、287頁。
- 2011年11月 熊木俊朗「オホーツク土器と擦文土器の出会い」今村啓爾編『異系統土器の出会い』同成社、175-196頁。
- 2012年3月 熊木俊朗「香深井A遺跡出土オホーツク土器の型式細別と編年」『東京大学考古学研究室研究紀要』第26号、1-38頁。
- 2012年3月 熊木俊朗・國木田大編『トコロチャン跡遺跡オホーツク地点』東京大学大学院人文社会系研究科、388頁。

・口頭発表（レジメや報告書が印刷されているものはそれを記してある）

- 2010年4月 熊木俊朗「北海道東部のオホーツク文化集落について ―最近の調査成果から―」北海道考古学会編『北海道考古学会 2010年度研究大会 オホーツク文化とは何か』北海道考古学会、19-30頁、北海道大学。
- 2010年5月 大貫静夫・福田正宏・I.Shevkomud・熊木俊朗・内田和典・森先一貴・國木田大・今井千穂・S.Kosityna・M.Gorshkov・E.Bochkareva・佐藤宏之「コンドン文化の理解に向けて□クニャーゼ・ヴォルコンスコエ1遺跡の調査から」日本考古学協会編『日本考古学協会第76回総会 研究発表要旨』日本考古学協会、18-19頁、国士舘大学。
- 2010年6月 國木田大・吉田邦夫・I.Shevkomud・大貫静夫・佐藤宏之・熊木俊朗・福田正宏・内田和典・森先一貴・A.Konopatskii「ロシア・アムール流域における過去一万年間の文化編年」日本文化財科学会第27回大会実行委員会編『日本文化財科学会第27回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会第27回大会事務局、276-277頁、関西大学。
- 2010年12月 熊木俊朗「講座 現在進行形！ オホーツク文化の調査状況」北海道立北方民族博物館。
- 2010年12月 役重みゆき・佐藤宏之・熊木俊朗・國木田大・尾田識好・林和広・夏木大吾・高屋敷飛鳥・高鹿哲広・山田哲「北海道北見市吉井遺跡」『第24回東北日本の旧石器文化を語る会 予稿集』東北日本の旧石器文化を語る会、73-80頁、秋田市中心公民館。
- 2011年3月 福田正宏・I.Shevkomud・熊木俊朗・國木田大・森先一貴・内田和典・M.Gorshkov・S.Kosityna・E.Bochkareva・吉田邦夫・佐藤宏之・大貫静夫「アムール河口域の考古学的調査(2010年度)」『第12回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、

28-31 頁、札幌学院大学総合研究所。

2011 年 12 月 熊木俊朗「特別講演会 環オホーツク海をめぐる先史文化の交流 ―サハリン・北海道・千島―」斜里町立知床博物館。

2012 年 2 月 熊木俊朗「オホーツク文化の展開」安田喜憲編『地球温暖化の環境考古学・歴史学に関する文献レビュー 平成 23 年度実施報告書』国際日本文化研究センター・電力中央研究所、274-284 頁、東京農業大学オホーツクキャンパス。

2012 年 2 月 大貫静夫・I.Shevkomud・福田正宏・熊木俊朗・國木田大・佐藤宏之・尾田識好・大澤正吾・夏木大吾・内田和典・M.Gorshkov・S.Kosityna・E.Bochkareva・森先一貴「東部極東平底土器の形成過程について ―2011 年度コンドン 1 遺跡の調査から―」『第 13 回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、26-29 頁、東京大学。

2012 年 2 月 大澤正吾・熊木俊朗・國木田大・山田 哲「2010・2011 年度北海道北見市大島 2 遺跡発掘調査報告」『第 13 回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、46-49 頁、東京大学。

#### (國木田関連分)

・著書・論文・調査報告等

2010 年 8 月 Kunio Yoshida, Tatsunori Hara, Dai Kunikita, Yumiko Miyazaki, Takenori Sasaki, Minoru Yoneda, Hiroyuki Matsuzaki “ Pre-bomb marine reservoir ages in the Western Pacific”. Radiocarbon 52-3, 1197-1206

2011 年 3 月 國木田大・吉田邦夫「三内丸山遺跡第 32 次発掘調査資料（環状配石墓・盛土状遺構）の  $^{14}\text{C}$  年代測定」『特別史跡三内丸山遺跡年報』14、青森県教育委員会、27-34 頁。

2011 年 3 月 國木田大・吉田邦夫「堂平遺跡出土資料の  $^{14}\text{C}$  年代測定と炭素・窒素同位体分析」『堂平遺跡（本文編）』、津南町教育委員会、393-401 頁。

2011 年 3 月 國木田大・吉田邦夫「蕨山遺跡出土炭化物の  $^{14}\text{C}$  年代」『飛島における考古学的調査』、東北芸術工科大学東北文化研究センター、51-53 頁。

2011 年 3 月 國木田大・I.Shevkomud・吉田邦夫「アムール下流域における新石器文化変遷の年代研究と食性分析」『東北アジアにおける定着的食料採集社会の形成および変容過程の研究 東京大学常呂実習施設研究報告』第 9 集、東京大学大学院人文社会系研究科、201-236 頁。

2011 年 5 月 庄田慎矢・松谷暁子・國木田大・渋谷綾子「岡山県上東遺跡出土の弥生土器に付着した炭化物の由来を探る」『植生史研究』第 20 巻第 1 号、41-52 頁。

2011 年 5 月 一木絵理・國木田大・吉田邦夫・辻誠一郎「群馬県板倉町寺西第二貝塚出土遺物の放射性炭素年代」『利根川』第 33 号、利根川同人、36-41 頁。

2011 年 11 月 國木田大「縄文時代におけるクッキー状炭化物の研究」『高梨学術奨励基金年報 平成 22 年度研究成果概要報告』、財団法人高梨学術奨励基金、85-92 頁。

2011 年 12 月 内田和典・シェフコムード I.Ya. ・今井千穂・橋詰潤・國木田大・ゴルシュコフ M.V. ・コシツウナ S.F. ・ボチカリョバ E.I. ・山田昌久「アムール下流域における前期新石器時代「コ

「コンドン1 類型」について□ 2009 年度コンドン1 遺跡の調査成果を中心に□ 』『縄文時代早期を考える』、東北芸術工科大学、55-70 頁。

2011 年 3 月 國木田大「縄文時代におけるクッキー状炭化物の炭素・窒素同位体分析」『東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究 I 』、東北芸術工科大学、199-206 頁。

2011 年 3 月 福田正宏・阿子島香・國木田大・吉田邦夫「宗仁式土器の再検討」伊東信雄コレクションの型式と年代□ 』『Bulletin of the Tohoku University Museum』11、The Tohoku University Museum, Tohoku University、201-208 頁。

2012 年 3 月 熊木俊朗・國木田大編『トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点』東京大学大学院人文社会科学系研究科、388 頁。

・口頭発表（レジメや報告書が印刷されているものはそれを記してある）

2010 年 5 月 大貫静夫・福田正宏・I.Shevkomud・熊木俊朗・内田和典・森先一貴・國木田大・今井千穂・S.Kosityna・M.Gorshkov・E.Bochkareva・佐藤宏之「コンドン文化の理解に向けて□ クニャーゼ・ヴォルコンスコエ1 遺跡の調査から」日本考古学協会編『日本考古学協会第 76 回総会 研究発表要旨』日本考古学協会、18-19 頁、国士舘大学。

2010 年 6 月 國木田大・吉田邦夫「クッキー状炭化物の由来解明とその年代」日本文化財科学会第 27 回大会実行委員会編『日本文化財科学会第 27 回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会第 27 回大会事務局、150-151 頁、関西大学。

2010 年 6 月 國木田大・吉田邦夫・I.Shevkomud・大貫静夫・佐藤宏之・熊木俊朗・福田正宏・内田和典・森先一貴・A.Konopatskii「ロシア・アムール流域における過去一万年間の文化編年」日本文化財科学会第 27 回大会実行委員会編『日本文化財科学会第 27 回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会第 27 回大会事務局、276-277 頁、関西大学。

2010 年 11 月 Kunio Yoshida, Dai Kunikita “ Radiocarbon dating of bones from Mal’ ta site” . International Symposium Siberia and Japan in the Late Paleolithic Period, Adaptive Strategies of Humans in the Last Glacial Period, 33-38, Tokyo, Japan.

2010 年 11 月 С.С. Макаров, К. Дай “ Проблема датирования стоянки древнего человека на территории местонахождения фауны 《Луговское》” . III Северный Археологический конгресс, 39-40, Ekaterinburg, Russia.

2010 年 12 月 役重みゆき・佐藤宏之・熊木俊朗・國木田大・尾田識好・林和広・夏木大吾・高屋敷飛鳥・高鹿哲広・山田哲「北海道北見市吉井沢遺跡」『第 24 回東北日本の旧石器文化を語る会 予稿集』東北日本の旧石器文化を語る会、73-80 頁、秋田市中心公民館。

2011 年 3 月 國木田大「三内丸山遺跡の盛土の形成過程とその場所性の解明」『平成 22 年度三内丸山遺跡報告会』青森県教育庁文化財保護課、13-23 頁、三内丸山遺跡縄文時遊館。

2011 年 3 月 大貫静夫・國木田大・吉田邦夫「極東北部新石器時代の変遷について□ 額拉蘇 C 遺跡採集土器の新たな測定年代から□ 』『第 12 回北アジア調査研究報告会』北アジア調査研究報告会実行委員会、16-18 頁、札幌学院大学総合研究所。

- 2011年3月 國木田大・吉田邦夫・大貫静夫「付編 額拉蘇 C (オロス) 遺跡出土土器付着炭化物の<sup>14</sup>C年代測定」『第12回北アジア調査研究報告会』北アジア調査研究報告会実行委員会、19頁、札幌学院大学総合研究所。
- 2011年3月 福田正宏・I.Shevkomud・熊木俊朗・國木田大・森先一貴・内田和典・M.Gorshkov・S.Kosityna・E.Bochkareva・吉田邦夫・佐藤宏之・大貫静夫「アムール河口域の考古学的調査(2010年度)」『第12回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、28-31頁、札幌学院大学総合研究所。
- 2011年3月 D. KUNIKITA, K. YOSHIDA, I. SHEVKOMUD, S. ONUKI, H. SATO, T. KUMAKI, M. FUKUDA, K. UCHIDA, K. MORISAKI, A. KONOPATSKI “Age determination of Neolithic cultural change and dietary reconstruction in the Amur River basin”. 12th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry, 226, Wellington, New Zealand.
- 2011年4月 國木田大「北海道における縄文時代年代研究の現状と課題」『北海道考古学会2011年度研究大会 北海道の縄文文化研究の今』北海道考古学会、39-50頁、北海道大学。
- 2011年5月 阿部昭典・國木田大・吉田邦夫「縄文時代の鐸形土製品付着物の自然科学分析」日本考古学協会編『日本考古学協会第77回総会 研究発表要旨』日本考古学協会、38-39頁、國學院大學。
- 2011年12月 山田哲・役重みゆき・佐藤宏之・國木田大・尾田識好・富樫孝志・夏木大吾・高屋敷飛鳥・中村雄紀「北海道北見市吉井沢遺跡第6次発掘調査」『第25回東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』東北日本の旧石器文化を語る会、41-48頁、外ヶ浜町役場。
- 2012年2月 大貫静夫・I.Shevkomud・福田正宏・熊木俊朗・國木田大・佐藤宏之・尾田識好・大澤正吾・夏木大吾・内田和典・M.Gorshkov・S.Kosityna・E.Bochkareva・森先一貴「東部極東平底土器の形成過程について -2011年度コンドン1遺跡の調査から-」『第13回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、26-29頁、東京大学。
- 2012年2月 大澤正吾・熊木俊朗・國木田大・山田 哲「2010・2011年度北海道北見市大島2遺跡発掘調査報告」『第13回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、46-49頁、東京大学。
- 2012年2月 夏木大吾・佐藤宏之・國木田大・尾田識好・役重みゆき・富樫孝志・高屋敷飛鳥・山田哲・中村雄紀「北海道北見市吉井沢遺跡の発掘調査」『第13回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、50-53頁、東京大学。
- 2012年3月 國木田大「史跡常呂遺跡を取り巻く先史時代の自然環境」『ところ遺跡の森講演会』北見市教育委員会、北網圏文化センター。

#### (4) 教育普及活動

##### ①遺跡発掘体験講座(平成22年度)

主催 東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設・北見市教育委員会  
開講日時 平成21年8月28日 10:00~12:00

プログラム等 ①遺跡の概要説明と見学  
大島遺跡群  
②遺跡発掘体験  
大島2遺跡  
講師 熊木俊朗・山田 哲（北見市教育委員会）  
参加者 2名

### ②第14回文学部公開講座

主催 東京大学文学部・北見市・北見市教育委員会  
開講日時 平成22年10月8日（①13:30～14:30、②18:00～20:40）  
プログラム等 ①常呂高校特別講座（共催：常呂高等学校、会場：常呂高等学校体育館）  
「翻訳という仕事」（講師：柴田元幸 東京大学大学院人文社会系研究科教授）  
②北見公開講座（会場：北見芸術文化ホール）  
東京大学文学部・北見市 地域間交流協定調印式  
第1講「世界遺産と日本史学」（講師：佐藤 信 東京大学大学院人文社会系研究科教授）  
第2講「源氏物語に描かれた夫婦愛」（講師：藤原克己 東京大学大学院人文社会系研究科教授）  
東大関係出席者： 柴田元幸・佐藤 信・藤原克己・小松久夫（人文社会系研究科長）・大貫静夫（人文社会系研究科教授）・熊木俊朗・國木田大・貝田綾子（文学部事務長）・ほか東京大学職員4名

### ③第15回文学部公開講座

主催 東京大学文学部・東京大学常呂資料陳列館・北見市・北見市教育委員会  
開講日時 ①平成23年6月10日13:30～14:40、②平成23年6月11日14:00～15:40、  
③平成23年6月11日18:30～20:10  
プログラム等 ①常呂高校特別講座（共催：常呂高等学校、会場：常呂高等学校体育館）  
「ことばで伝える／ことばで感じる／ことばで考える」（講師：佐藤健二 東京大学大学院人文社会系研究科教授・副研究科長）  
②留辺蘂公開講座（会場：留辺蘂町公民館）  
「弥生時代の北海道」（講師：設楽博己 東京大学大学院人文社会系研究科教授）  
③北見公開講座（会場：北見芸術文化ホール）  
「引用と変奏 -日本美術の作られ方」（講師：佐藤康宏 東京大学大学院人文社会系研究科教授）  
東大関係出席者： 佐藤健二・設楽博己・佐藤康宏・大貫静夫（人文社会系研究科教授）・熊

木俊朗・國木田大・小山誠司（文学部副事務長）・ほか東京大学職員 1 名

#### ④遺跡発掘体験講座（平成 23 年度）

主催	東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設・北見市教育委員会・常呂町郷土研究同好会
開講日時	平成 21 年 8 月 27 日 10:00～12:00
プログラム等	①遺跡の概要説明と見学 大島遺跡群 ②遺跡発掘体験 大島 2 遺跡
講師	熊木俊朗・山田 哲（北見市教育委員会）
参加者	6 名＋報道関係者 3 名

#### 非常勤講師・委員委嘱等

##### （熊木関連分）

日本赤十字北海道看護大学 非常勤講師（平成 22 年度～平成 23 年度）  
日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員（平成 22 年度～平成 24 年度）  
北海道考古学会会誌編集委員（平成 22 年度）  
北海道立北方民族博物館運営評価委員（平成 22 年 6 月 16 日～平成 24 年 3 月 31 日）  
北見市文化財審議委員会委員（平成 22 年 3 月 5 日～平成 26 年 3 月 4 日）  
北見市常呂自治区社会教育推進会議委員（平成 22 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）  
北見市史跡整備専門委員（平成 22 年 11 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日、平成 23 年 10 月 28 日～3 月 27 日）  
北見市史編さん委員会委員（平成 21 年 8 月 13 日～平成 23 年 8 月 12 日）

##### （國木田関連分）

新潟県津南町「農と縄文の体験実習館なじよもん」館外研究員（平成 23 年度～平成 24 年度）

#### （5）実習施設利用状況

##### ①研究者の主な受入状況（本学考古学研究室教員・学生・大学院生による研究は除く）

平成 22 年 6 月 辻誠一郎（東京大学大学院新領域創成科学研究科・教授）ほか 1 名「常呂遺跡周辺の自然科学調査」  
平成 22 年 6 月 福田正宏（東北芸術工科大学芸術学部・専任講師）「常呂周辺遺跡の調査研究」  
平成 22 年 6 月 尾田識好（東京大学大学院新領域創成科学研究科・博士課程）「北海道の細石刃文化の研究」  
平成 22 年 6 月 グレン・サマヘイズ（オタゴ大学人類学科・学科長）ほか 2 名「常呂周辺遺跡出土考古資料の調査研究」

- 平成 22 年 8 月 役重みゆき（東京大学大学院人文社会系研究科・修士課程）「北海道の細石刃石器群の調査」
- 平成 22 年 9 月 濱口 皓（首都大学東京大学院人文科学研究科・修士課程）「北見市出土細石刃資料の調査」
- 平成 22 年 9 月 辻誠一郎（東京大学大学院新領域創成科学研究科・教授）ほか 5 名「常呂遺跡周辺の自然科学調査」
- 平成 23 年 1 月 カリーサ・テリー（首都大学東京大学院人文科学研究科・客員研究員）・出穂雅実（首都大学東京大学院人文科学研究科・准教授）「常呂実習施設収蔵資料の調査研究」
- 平成 23 年 2 月 高橋 健（横浜市歴史博物館・学芸員）「トコロチャシ跡遺跡資料の分析および研究」
- 平成 23 年 3 月 守屋豊人（北海道大学埋蔵文化財調査室・調査員）ほか 3 名「アイヌ文化の住居建築材にみられる古環境利用の動態研究」に関わる試料調査」
- 平成 23 年 3 月 高橋 健（横浜市歴史博物館・学芸員）「トコロチャシ跡遺跡資料の分析および研究」
- 平成 23 年 4 月 福田正宏（東北芸術工科大学芸術学部・専任講師）「トコロチャシ跡遺跡資料の調査研究」
- 平成 23 年 5 月 高橋 健（横浜市歴史博物館・学芸員）「トコロチャシ跡遺跡資料の分析および研究」
- 平成 23 年 6 月 辻誠一郎（東京大学大学院新領域創成科学研究科・教授）ほか 2 名「常呂遺跡周辺の自然科学調査」
- 平成 23 年 7 月 崔聖国（東京大学大学院新領域創成科学研究科・博士課程）「大島 2 遺跡出土炭化材資料の調査」
- 平成 23 年 11 月 ヴァヂモヴナ・ヤンシナ（ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝人類学・民族学博物館・上級研究員）・役重みゆき（東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程）「常呂周辺遺跡出土考古資料の調査研究」
- 平成 24 年 1 月 森先一貴（奈良文化財研究所・研究員）「常呂実習施設収蔵資料の調査研究」
- 平成 24 年 3 月 守屋豊人（北海道大学埋蔵文化財調査室・調査員）ほか 3 名「アイヌ文化の住居建築材にみられる古環境利用の動態研究」に関わる試料調査」

②学生宿舎稼働状況（実習含む 単位：宿泊者 1 人あたり宿泊数の和）

<平成 22（2010）年度>

4 月：0	5 月：0	6 月：22	7 月：104	8 月：163
9 月：205	10 月：54	11 月：1	12 月：0	1 月：1
2 月：19	3 月：59			
合計：628 名				

<平成 23（2011）年度>

4 月：4	5 月：1	6 月：11	7 月：6	8 月：185
9 月：183	10 月：54	11 月：4	12 月：0	1 月：3
2 月：30	3 月：40			

合計：521名

③北海文化研究常呂資料陳列館入館者数（入館者名簿に基づく人数）

<平成22（2010）年度>

4月：24	5月：31	6月：112	7月：48	8月：79
9月：97	10月：36	11月：18	12月：6	1月：1
2月：0	3月：10			

合計：462名

<平成23（2011）年度>

4月：17	5月：39	6月：56	7月：84	8月：150
9月：63	10月：44	11月：26	12月：4	1月：1
2月：12	3月：2			

合計：498名

④資料貸出等

『サライ』2010年8月号（小学館）

常呂資料陳列館 館内写真 1点（データ提供）

標津町ポー川史跡自然公園 パネル展示コーナー（平成22年6月～）

網走市モヨロ貝塚 竪穴住居等ガラス乾板 5点（データ提供）

栄浦第二遺跡・トコロチャシ跡遺跡出土オホーツク文化骨角器 写真2点（リバーサル）

五味文彦編『Jr.日本の歴史 第3巻』（小学館、2010年）

トコロチャシ跡遺跡出土オホーツク文化骨角器 写真1点（リバーサル）

長沼孝ほか『新版 北海道の歴史 上巻』（北海道新聞社、2011年）

網走市モヨロ貝塚 オホーツク墓ガラス乾板 1点（データ提供）

トコロチャシ跡遺跡出土オホーツク文化骨角器 写真1点（リバーサル）

斜里町立知床博物館 第33回特別展「発掘されたウトロ遺跡群」（平成23年10月4日～平成24年1月12日）

ウトロ海岸砂丘遺跡発掘資料 遺物・図面・写真 一式

ウトロ滝上遺跡発掘資料 遺物・図面・写真 一式

釧路市立博物館館報 No.408（2011年9月）・No.409（2012年3月）

釧路市チャランケチャシ跡 ガラス乾板 1点（紙焼き）

釧路市ウライケチャシ跡 ガラス乾板 1点（紙焼き）

（6）組織

（北海文化研究常呂実習施設）

北海文化研究常呂実習施設長 小松久男（併任 研究科長・学部長、平成22年度）

中地義和（併任 研究科長・学部長、平成 23 年度）

北海文化研究常呂実習施設運営委員会 委員 6 名（委員長・副委員長各 1 名、委員 4 名）

准教授 熊木俊朗

助教 國木田大

有期雇用職員 2 名

（北海文化研究常呂資料陳列館）

館長 小松久男（併任 研究科長・学部長、平成 22 年度）

中地義和（併任 研究科長・学部長、平成 23 年度）

（文責：熊木俊朗）